

目次

- 巻頭言（水戸家庭裁判所長）……………(1)
- 第75回 社明運動……………(2)(3)
- 県更女だより・県BBS……………(3)
- 地区だより……………(4)(5)
- 自由往来・令和6年度収支決算書……………(6)
- こんにちは・サポートセンター紹介
県功労保護司の会だより・退任保護司……………(7)
- 第64回県更生保護大会
敬弔・新任保護司・他……………(8)

更生保護 いばらき

特集

第75回 社会を明るくする運動

第164号

発行人

茨城県保護司会連合会
茨城県更生保護協会
水戸市北見町1の1
水戸保護観察所内

TEL/FAX

029-226-7034

FAX

029-303-5334

E-mail

iba-kenporen@sweet.ocn.ne.jp

筑波山神社

筑波山御座替祭

おさがわりさい



春と秋に神輿が御神橋をお渡りになる

撮影者 軽部 五一（つくば地区保護司）

社会の変化と更生保護活動への期待



水戸家庭裁判所

所長 前田 巖

保護司をはじめ茨城県下の更生保護関係者の皆様には、日頃から、少年の再非行防止や健全育成のためひとかたならぬ御尽力をいただいております。誠にありがとうございます。

少子高齢化はもとより、価値観や生活様式・行動様式の多様化、デジタル化等の情報通信技術の発達等は、相互に影響し合いながら、我が国社会に急速な変化をもたらしています。地域や家族などのリアルな人間関係が希薄になる一方、ネットやSNSなどで顔の見えないままたやすく他者となることができるといっても、その一つの表れといえましょう。このような中で、闇バイトやトクリュウ（匿名・流動型犯罪グループ）などと呼ばれる、今までになかったタイプの結び付きによる強盗、特殊詐欺などが耳目を集め、また、大麻などの薬物事犯も若年層を中心に広がりを見せています。家庭裁判所で取り扱う少年事件につきましても、長らく減少傾向が続いておりましたが、令和4年を底に増加に転じたとみられる兆候があり、予断を許しません。

しかし、このような変化の中だからこそ、犯罪をした者や非行のある少年の再犯・再非行を防止し、社会の一員としての立直りを支えていく上で、健全な社会や信頼できる人からの「リアル」な働きかけや関係作りが重要になっていると感じています。皆様が日々いそいそとやられる対象者に対する適切な処遇・働きかけや、地域社会の理解・協力獲得等に向けた諸活動は、まさにそのコアとなるもので、今日益々その意義を増しています。改めて皆様の地道かつ献身的な取組に心からの敬意を表すとともに、家庭裁判所におきましても、少年に対する教育的措置の充実になお一層努めてまいりたいと考えております。



針谷市長と共に社明キャンペーン
(猿島地区)



大子町の商業施設での街頭キャンペーン
(久慈地区)



大都市長へ総理大臣メッセージの伝達
(北地区)



つくば市庁舎のライトアップ
(つくば地区)



那珂市内の商業施設でのキャンペーン
先崎市長と共に(那珂地区)



ケーズデンキスタジアムでのキャンペーン
(水戸地区)

感謝の日々
県更女だより

県連盟主催の一泊研修を例年通り、同じ内容で会員と実施しました。グループ毎に話し合い、実演、発表と続き見事なまとめで驚きました。

コロナ禍が落ち着いてからは色々な研修に力を入れてきました。各部独自の研修、全体で実施する研修。様々な研修を体験会得することにより、自然に知識と実力が身につくと思っただけです。

当会の特筆すべき事業として市から委託されている「子育て交流サロンわらべのぞみ」の運営があります(専任のスタッフにより月々土、9時～17時)。また、毎月実施しているたくさんさんの事業があります。茨城農芸学院の花壇作り、シオン学苑の食事作り、会員有志で立ち上げた「子育て支援サンフラワー」の実施、子ども食堂、隔月開催している「土浦地区青少年を考える会」等、年に一回ですがダルクとの交流会は、会員にとっては大切なふれあいの場です。

こうして、たくさんさんの事業を

長い間継続して実施できることは、会員の熱意と協力によるものと、日々感謝しています。

現在、9月に予定しているイベントの開催に向けて、学生会員を中心に準備を進めているところです。新会員だけでなく多くの学生会員にとって初めての運営参加となるため、不安を感じている様子もありますが、先輩会員や社会人会員と協力しながら、試行錯誤を重ねています。先輩や保護観察の方々のやり取りを通して、少しずつイベントの内容がブラッシュアップされていくのを感じています。

イベントの実施にあたっては、保護司会や更生保護女性会をはじめとする関係団体の皆様のご協力が欠かせません。引き続き、温かいご支援とご参加の程、どうぞよろしくお願いいたします。



県BBSだより



茨城県BBS連盟
会長 藤沼 礼敬

新会員と共に



子育て交流サロンの一コマ

お世話になっております。今年度はこれまでになく多くの新しい会員が加わりました。

BBSの活動に関心を持ち、自分の力を何かに役立てたいという思いで集まってくれた学生たちのおかげで、例年以上に活気のあるスタートを切ることができました。

全国統一ポスター



商業施設「パンブ」での街頭キャンペーン
(いなしき地区)



神栖市オークビレッジでの街頭キャンペーン
(鹿島地区)



恋瀬小学校での朝の声かけ運動
(石岡地区)



商業施設での街頭キャンペーン
(東茨城地区)



取手駅街頭キャンペーン
(取手地区)



6年ぶりに再開された駅頭活動
(東地区)



第16回「親子手ひねり教室」
一笠間工芸の丘にて(笠間地区)



道の駅いたこひかりの広場での街頭キャンペーン
(なめがた地区)



朝の声かけ運動石下紫峰高校にて
(常総地区)



土浦駅前街頭キャンペーン
(土浦地区)



龍ヶ崎市駅での街頭キャンペーン
(龍ヶ崎地区)



下館駅前での街頭キャンペーン
(西地区)



日立駅前駅頭キャンペーン
(日立地区)

第75回「社会を明るくする運動」
写真で綴る各地区の活動状況

第75回「社会を明るくする運動」(犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ)の各活動が、本年も7月を強調月間として県内各地で展開されました。本運動の趣旨に賛同し、たくさんさんの御支援・御協力をいただきました皆様、厚く感謝申し上げます。

「社会を明るくする運動」茨城県推進委員会事務局



研修の新たな試み
—オンライン講習会を通して—
いなしき地区 中島 宏
本地区保護司会は、一昨年度から名称を改称して「江戸崎地

県南ブロック



全国保護司連盟理事賞を受賞した
大同東小の池田彩希さんの発表

教育長賞のうち1名は、中央審査会へ進み、全国保護司連盟理事長賞という全国レベルの賞を射止めました。
本年1月に行われた受賞祝賀会で、受賞者本人にその対象となった作文「マンガラートとドーナツ」を発表していただき、保護司一同その内容に感嘆した次第です。本年も素晴らしい作文が応募されることを切望しております。

「区」から「いなしき地区」に変更した。現在、会員は46名。年間3回の定期研修と5回程度の自主研修会を実施している。
自主研修会には経験年数の浅い保護司の参加を呼びかけている。保護観察対象者への面接の悩みや困っていること等に対して、経験豊富な保護司からの適切な助言や過去の経験などを交えたアドバイスをもらえるように話題を提供している。
研修の一つとして、2年前からオンライン講習会をサポートセンターで実施することにした。プロジェクトやスピーカーを計画的に購入し、多くの保護司が参加できるように条件整備を進めてきた。また、サポートセンターの予定表を利用してオンライン講習会の連絡をし、各保護司がサポートセンターに集まって講演を視聴できるようにしている。視聴後、参加した保護司同士で協議したり、感想を述べ合ったりして研修を深めている。偶然にも、対象者と同じような処遇対応の内容で大変参考になったという意見もあった。今年度は、8月7日にオンライン講演会を予定しており、多くの意見交換ができることを期待する。

城里町支部活動報告

東茨城地区 岸野 教司

東茨城地区保護司会は、大洗町支部、茨城町支部、小美玉市支部で組織されており、計50名の保護司が在職し、関係諸団体と協力し、様々な更生保護活動を行っております。

中央ブロック



サポートセンターでの研修会の様子

オンライン講習会は、個人でもH@（はあと）や自分のパソコンで視聴することはできるが、集まった保護司同士で視聴後に話し合いをもつことで更に有意義な研修になると思っている。



七夕まつりでの様子

私が所属する城里町支部におきましては、7月は「社会を明るくする運動」強調月間、再犯防止啓発月間でもあり、6月23日には第75回「社会を明るくする運動」城里町推進委員会が開催され、関係諸団体出席の下開催され、その際に城里町長へ内閣総理大臣メッセージを伝達致しました。
又、「社会を明るくする運動」の強調月間でもある7月26日には、旧石塚駅前通りを会場として毎年開催される城里町の「しろさと七夕まつり」に合わせ、更生保護女性会、関係諸団体の皆様と共に、夕方とは言え猛暑の中、汗を拭いながらのお声がけと啓発品の配付は、少しでも



啓発品の配付

その目的が達成されたかと安堵を致しております。
更に町内各小中学校の夏休み後には、小中学生作文コンテストなどを実施する計画で、11月には更生保護女性会と合同での一泊研修として、静岡刑務所への研修を計画致しております。
最後に、今後も関係諸機関各団体等、多くの方々のご助力並びにご協力を賜りながら、保護司会の円滑な運営に努めて参りたいと思います。



地区だより

猿島地区

猿島地区 猿橋 正男

社会を明るくする運動

猿島地区保護司会は現在63名の会員で、私は五霞支部に所属し3名で活動しております。支部の会員充足率は75%であり、今後の増員も視野に入れながら活動の充実を目指しています。
私は昨年11月末に保護司を拝命し、今回初めて「社会を明るくする運動」に参加する機会を得ました。「道の駅ごか」において、役場健康福祉課の職員の皆さまのご協力をいただきながら、街頭での広報活動を実施しました。



「道の駅ごか」にての社明運動

北地区活動状況

北地区 志賀 聡

令和6年11月16日に、北地区保護司会、北茨城市、高萩市更生保護女性会との合同県外視察研修を実施致しました。
視察先は、栃木県さくら市喜連川社会復帰促進センターへ、保護司13名更女会18名の参加となりました。
喜連川社会復帰促進センター

は、東日本で唯一のPFI手法（民間企業が運営に一部参加）と構造改革特区制度を活用した新しいタイプの刑務所として開庁しました。
令和4年度からは、引き続き「官民協同による運動」「人材の再生」及び「地域との共生」の理念に基づいた運営を行い、女子受刑者の収容を開始するなどの取り組みを進めています。
「社会を明るくする運動」の活動においては、「内閣総理大臣メッセージ」の伝達式を、高萩地区、北茨城地区において市役所を訪問し、各市長への伝達式を実施致しました。
社明運動の一大イベントでもあります「社会を明るくする運動作文コンテスト」は、毎年多くの応募をいただいております。昨年は高萩学区小中学校で合計97編、北茨城学区で391編の応募があり、心に残る作品が多数ありました。
今年度も、各学校へ担当保護司が訪問し作文コンテストへの応募をお願い致しました。
保護司候補者の確保を目的とする情報交換会は年1回、各機関の委員の方の出席をいただき、情報交換会を実施しております。北地区保護司会においては、



喜連川社会復帰促進センターにて

鹿行ブロック

我が地区における社明運動

鹿島地区 中村 敦郎

鹿島地区保護司会はその対象となる区域が南北に70キロメートルもあり、したがって社明運動を明るくする運動も北から鉾田、鹿嶋、神栖の3つの支部別に計画することが通常です。

まず各支部の支部長を中心とする支部役員が各当該市長を訪問し、内閣総理大臣メッセージを手渡すことから活動が始まります。鹿嶋支部は、毎年7月1日に街頭キャンペーンを計画します（1日が週末の場合は直近の平日）。神栖市部と鉾田支部は首相メッセージの伝達を6月中旬に行い、7月中旬に鉾田市部4箇所、神栖市部2箇所において社明運動リーフレットやウェットティッシュなどを配付し、街頭キャンペーン活動を実施します。
社明運動作文コンテストについては、各小中学校の先生方に対し応募作品から当該校在校生の5%に相当する数の作品を選定し、保護司会へ提出頂くようお願いしております。これは昨年度に応募作品数が小学校160点、中学校234点と非常に多く、9月上旬までには選出・整理が困難であるという事情によるものです。
このような当地区内小中学校の協力によって、昨年の第74回社明運動作文コンテストにおいては、茨城県教育長賞2名、茨城県更生保護協会理事長賞1名、茨城新聞社社長賞1名、合計4名の受賞者が出ました。さらに

こんにちは No.96

保護司を拝命して 44年

久慈地区功労保護司
池田 数和氏を訪ねて

「法務省に行つて、保護司が公的補償を受けられる様に、交渉してきたんだ。」
平成22年7月に、桜川市で起きた保護司宅全焼事件。そのあとに池田数和先生から聞いた言葉でした。法務省では、この事態を重く受け止め、損害保険を利用して、保護司の家族や人的損害まで救済できる新しい制度の導入を決めたのでした。その時の茨城県保護司会連合会会長が池田先生でした。

池田先生は昭和11年2月生まれ、現在89歳になります。昭和44年に保護司に就任、平成25年までの保護司歴はなんと44年に及びます。茨城県で起きたこの事件を法律の改正にこぎつけた池田先生は、保護司の活躍がなければ、我々は安心して保護司として活動することはできなかったと思います。

実は、池田先生は今年になって骨折し、水戸の娘さんのところで療養していました。自



研修旅行先での池田数和先生(前列)

宅に戻ってこられたというので訪ねてきました。池田先生は、大子町議会議員、調停委員なども務めていました。各種団体の要職にあって多忙を極める方でした。更生保護の功績により、平成9年10月に法務大臣表彰、平成11年4月に藍綬褒章を、平成18年に端宝双光章を授与されています。その指導力は実にはつきりして、保護司としてもきちんと仕切っていました。保護司退職後も久慈地区大子支部の集まりにも顔を出してくれています。以前は、大子支部の一泊研修旅行でもご夫婦で参加されたりもしていました。家で同居している次女の智子さんに土産と言ったりして地方の銘酒を購入されたりしていました。保護司は現在智子さんが引き受けています。

「これからは、若手保護司や外国語が話せる保護司の確保が必要だと思われまます。皆様のご活躍に期待しております。」との言葉をいただきました。

池田先生にはこれからも元氣にお過ごしただければと願っております。
(久慈地区保護司 出村尚英 記)



サポートセンター入口より望む
(取手地区更生保護サポートセンター)

当サポートセンターには、保護観察対象者との面接スペースも設置されています。全保護司が企画調整保護司となり運営しています。さらに、各専門部会・役員会・保護司開拓の為に面談等に利用しています。今後も、当サポートセンターを中心に、更生保護活動に尽力し、活動の情報を発信し、新人保護司育成の場及び、情報交換の場として大いに活用していきたい。

取手地区 三田村 節子

取手地区更生保護 サポートセンター



茨城県功労保護司 の会だより

健康に生きる

茨城県功労保護司の会
監事 菅谷 修



歩く会「わさび田を訪ねて」

保護司の異動

○退任(敬称略) 21名

菊池 徹(水戸)
小池 貞(水戸)
坪井 春江(水戸)
遠藤 久子(東茨城)
永井 政二(東茨城)
飯田 恒男(笠間)
永島 好夫(日立)
尾崎 英明(久慈)
鈴木 肇夫(土浦)
片岡 光雄(つくば)
齊藤 隆夫(つくば)
高木 保(取手)
内田 政文(鹿島)
菅谷利右衛門(鹿島)
相澤 丈(西)
富岡 勉(西)
影山 孝(猿島)
安井 正博(猿島)
赤須 通重(久慈)
竹村 篤(土浦)
篠崎 博明(いなしき)

任期満了(7・7・17付)

自由往来

風の足跡

土浦地区保護司会

松井 泰寿

天気の良い日には、つくばりりんりんロードの早朝サイクリングを楽しんでいます。

6月に入ると、旧筑波線虫掛駅周辺の蓮田では、小さな葉が芽吹き、瞬く間に葉を広げていきます。

5月の連休中に植えられた早苗はしっかりと根付いて、日に日に成長していきます。日差し具合によって苗の色合が違ってきて、グラデーションをほどこした絨毯が敷きつめられているようです。餌を探している白鷺たちの姿が隠れる程に、稲の草丈が伸びてくると、いわゆる「風の足跡」がはつきりと見えるようになります。風のそよぎにつれて、稲が揺らぎ、各部の色合いが違って見えてきます。それが風とともに移動して、風の精が歩いて行くようです。

蓮の背丈も伸び、葉も大きくなってくると、風に吹かれて、葉の表裏が見え隠れし、こちらは、風の精が走り回っているようです。

植物の成長につれて、野鳥の



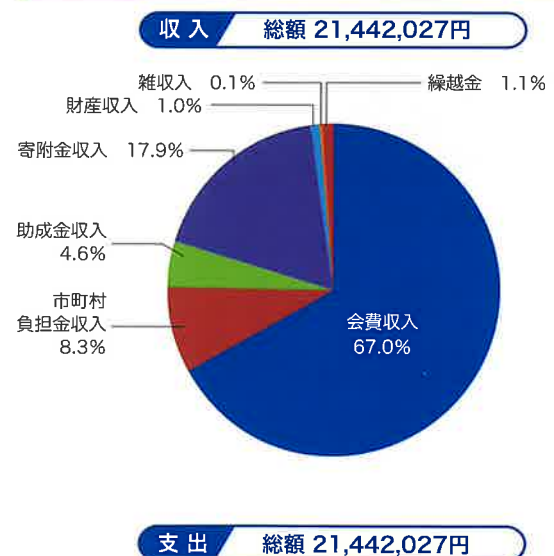
りんりんロード虫掛付近

囀りも大きくなってきます。スズメ、ヒバリ、キジ、ホトトギス、ウグイス、ヨシキリ等々、彼らは子育ての最中なのでしょう。中旬にはツバメも姿を見せ、飛び回るようになります。

梅雨空が続く、私たちがうんざりしていても、稲や蓮はより一層成長を早め、餌も増えるのでしょうか、鳥たちはさらに元気に飛び回っています。彼らはいとも一生懸命です。それが自然の摂理のままに生きる生命のありようです。梅雨が嫌だ、鬱陶しいなどとは思わないようです。こちらも一時、爽やかな気分にはさせられます。しかし帰宅すれば、暑さに耐えきれず愚痴をこぼしてしまします。いつまで経っても心頭は滅却できないようです。

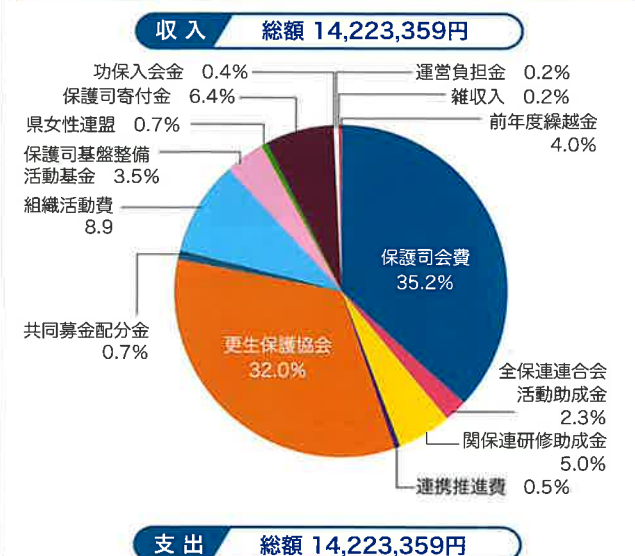
令和6年度 更生保護法人茨城県更生保護協会収支決算書

令和6年4月1日～令和7年3月31日



令和6年度 茨城県保護司会連合会収支決算書

令和6年4月1日～令和7年3月31日



第64回茨城県更生保護大会

茨城県保護司会連合会

副会長 茂木 功

来る11月13日(木)、水戸市のザ・ヒロサワ・シティ会館にて第64回茨城県更生保護大会が開催されます。

本大会は、県下における保護司等更生保護関係者が一堂に会し、功労者の顕彰を

行い、士気の高揚と意識の統一を図り、更生保護制度の一層の充実発展を期するものです。

水戸保護観察所及び県保護司会連合会と連携を図り、大会実行委員会を組織し、成功裏に開催されるよう準備を進めているところです。

歴史ある更生保護大会、今年度は鹿行ブロックが担当させていただきます。



昨年度の大会風景

今回のオープニングセレモニーは、水戸工業高等学校のジャズバンド部(ブルービキナーズ)の若さとエネルギーに満ちた演奏で会場を盛りあげていただきます。

皆様のお出でを楽しみにお待ちしております。

敬 弔

次の方々のご逝去に接し、生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

石川 徳治殿(土浦・功労保護司) (7・6・22)

三村 治男殿(城里・保護司) (7・7・2)

伯耆田隆一殿(取手・保護司) (7・7・21)

岡野 信殿(笠間・功労保護司) (7・7・23)

平野 貞男殿(日立・功労保護司) (7・8・10)

・新任保護司紹介

(敬称略 20名)

幸田 哲樹(水戸)

山田 純慶(水戸)

雨谷 俊祐(東茨城)

秋葉 紀子(那珂)

鈴木 弘道(那珂)

高村 恭子(那珂)

常井 一成(笠間)

大森 裕次(北)

小松崎伸一(土浦)

岡野 武士(石岡)

齋藤さわ子(石岡)

黒澤 昇(つくば)

岡田 治美(いなしき)

佐々木彩子(いなしき)

高野 元一(鹿島)

大澤 敦子(西)

佐藤 勤(西)

鈴木 悟(西)

武田 憲一(西)

広澤 淳子(西)

(7・7・18付)



あ と が き

今年の夏の暑さは例年にも増して厳しくなりました。気温の高さもありますが、小雨の傾向が強く県内各地で農作物への心配が聞こえています。その中で各地で行われました第75回社会を明るくする運動強調月間での活動報告が誌面を飾っています。活動に参加された皆様お疲れ様でした。

猛暑となった今夏を振り返ると、環境の変化に対応して、人間の生活も変える必要を感じました。我々の活動にも同じことが言えるでしょう。本年6月か

ら拘禁刑へ大きく転換された刑法の変更もあり、人材確保や処遇方法など多様な問題に対応が求められています。しかし、肝要なのは、変えるべき事柄と変えてはいけない物事を見極めることと考えています。

(渡辺 記)



〈編集委員〉

◎篠原 光 ○佐川憲一郎

渡辺 信行 齋藤 啓一

菅谷 京子

〈編集協力委員〉

小坪 健二(校正協力)

鈴木 浩(校正協力)

川上 裕康 大久保賢一

森 よし江 塙 克也

木村 光利 志賀 聡

松井 泰壽 久松 栄

栗原 紀恵 福島 有美

秋山 誠 飯田 道子

小林登美子 小原よし江

〈事務局〉

企画調整課長 鈴木真寿美

企画調整課保護観察官 栗田加奈子

県保連事務局長 大津 辰夫